

団体名		
<p>NPO法人 SOU(代表:友田由香さん)</p> 	<p>コロナ禍でも子どもたちに笑顔 を！自分でつくろうマイマスク</p>	<p>■「どんな団体」で、「どんな取り組み」を行いましたか？ 日頃使える「雑貨」や「お洋服」からもらって嬉しい「ギフト」まで、デザイン豊かなこだわりの商品を取り扱うセレクトショップを運営しています。それぞれの商品は障害当事者が作成しています。現在、障害者の雇用を取り巻く環境としては、障がい者雇用の受け皿が少ない点や、工賃(月収)が平均1万円程度と「自立」とは程遠い点が課題であるため、商品の販売を通じ、前向きに活躍する障害者を増やすことに寄与していきたいと思い活動しています。</p> <p>■「だれ」を対象とした活動でしょうか？ 市内の子どもたち、およびその保護者を対象に、「手作りマスクのワークショップ」を市内2か所で開催しました。マスクが生活必需品となる中で、自分でデザインしたオリジナルのマスクであれば、より愛着を持って使えるのではと思い企画しています。ともに10組を超える申し込みがあり、大盛況！私たちもびっくりしました！</p> <p>■活動を行っての「成果」と「課題」を教えてください！ コロナ禍で何かと暗いニュースが多い中で、参加された親子の楽しそうな笑顔がとても印象的でした。学校や塾で学ぶ勉強も大切だと思いますが、モノづくりに関わらず、人が集い、交流する機会や場の大切さを改めて感じ、そのうえで安心してつながれる環境整備の必要性を痛感しました</p>
<p>NPO法人 トモニ アイル</p> 	<p>離れていてもつながりを・・・ サンドイッチ無料配布します！</p>	<p>■「どんな団体」で、「どんな取り組み」を行いましたか？ 主に精神障害者の方が利用する福祉施設で、調理パンの作製、手作り手芸品の販売を行っています。今回はコロナ支援金を活用し、「ひとり親家庭」への調理パンおよびマスクの無料配布(配達)を実施しました。</p> <p>■「だれ」を対象とした活動でしょうか？ コロナウイルスの影響により社会が塞ぎ込むような状況の中で、「ひとり親家庭のみなさんに向けた楽しい取り組みができないか」検討していました。施設のメンバーで話し合う中で、自分たちにできることとして、パンとマスクの無料配布という話になり、全員が賛成のうえで取り組みをスタートすることができました。</p> <p>■活動を行っての「成果」と「課題」を教えてください！ 微力ですが日々の食事のお手伝いできたこと、そして、提供した家庭から感謝のお手紙をいただくことができ、とてもうれしかったです。 何かの縁でつながったこの関係性を、一過性のものとせず、同じ立川に暮らすものとしてつながりを持ち続けられたらと思います。「困ったときはお互いさま」の精神で、これからも貢献できたらと思います。</p>
<p>コロナに負けないぞ！プロジェクト (代表:鈴木美和子さん)</p> 	<p>唐揚げでみんなを笑顔に！ ～コロナがつないだ地域の力～</p>	<p>■「どんな団体」で、「どんな取り組み」を行いましたか？ コロナウイルスの感染が広がる中、楽しみがなくなってしまった子どもたちを元気づけたいと立ち上がった市民で構成された団体です。砂川平和ひろばを活用させていただき、近隣エリアの小学生を対象に、キッチンカーを手配してから揚げの配布を行いました。また、スクールソーシャルワーカーとも連携し、必要なご家庭にお届けも行っています。</p> <p>■「だれ」を対象とした活動でしょうか？ コロナ禍で外出自粛要請が出され、友だちに会えない・夏のイベントが中止になるなど、今年は子どもたちにとって我慢の多い年だと感じました。そのような状況下で一人でも多くの子どもたちを笑顔にすること、少しでも栄養価のある食品を配布することが主たる目的でした。また、この活動を通して地域で支え合うつながりをつくることも考え企画しました。</p> <p>■活動を行っての「成果」と「課題」を教えてください！ 実際に来てくださった方や親御さんより感謝の言葉をいただき、このような状況下でも開催して良かったと感じております。企画から開催まで時間が短かったため、宣伝期間を十分に設けることができなかったことが反省点ではありますが、今回多くのボランティアスタッフにご協力いただき、青少年健全育成委員会の方や大学生、民生委員さんやスクールソーシャルワーカー等、多様な方の交流の場となったことが大きな成果かと感じます。このつながりをもとに、また新たな助け合いができれば良いと感じております。</p>
<p>わかば円居の家 (大宮優人さん)</p> 	<p>逆境を活動再開の力に ～わかば円居の家“フードパントリー”の取り組み～</p>	<p>■「どんな団体」で、「どんな取り組み」を行いましたか？ 「遅くまで児童館で遊んでいる子どもが多い」、「団地に住む一人暮らし高齢者が多い」という現状から、子どもと高齢者の孤食解消に向け、2017年から多世代型地域食堂を実施しています。スクールソーシャルワーカーや地域福祉コーディネーターと協働しながら、居場所としての機能が強化され、高齢者が調理ボランティアとして活躍する場にもなっています</p> <p>■「だれ」を対象とした活動でしょうか？ コロナ禍で3月からやむなく食堂は中止、児童館も会館も団地の集会所も閉鎖し、子どもも高齢者も様子が見えなくなってしまう状況で、なんとか「つながる機会をつくろう」と、お米やレトルト食品などを袋詰めしたものを支援が必要な家庭に配布する「フードパントリー」という取り組みを企画しました。</p> <p>■活動を行っての「成果」と「課題」を教えてください！ フードパントリー当日は、レトルト食品、カップ麺に加え、いつも地域食堂へ寄付くださっているパン屋さんでパンを買い、6人のボランティアさんが1時間かけて70人分の袋詰めをしてくれ、18時から配布できました。お菓子の寄贈もいただいたので「うちだけじゃないですか?!」「こんなにたくさん?!」と喜ばれるほどの食品を配ることができました。 困っていることを発信できない、あるいは自分たちが困っていると感じていない家庭もあります。今回のフードパントリーをきっかけに、わかば円居の家を様々なご家庭に「ちょっと楽しそう!」「(行くことの)メリットがあるかも」と思ってもらえたら万々歳です。子どもや大人の「生きにくさ」を、地域で、わかば円居の家で、少しでも和らげられたらと思います。</p>